



【 礼 拝 案 内 】

「午後2時46分の黙想と祈り」

～東日本大震災を憶えて～

「東日本大震災を憶えての祈り」は、5月以降、下記のように変更となります。

祈り続けます

これまで第3主日午後6時から聖アンデレ主教座聖堂と各教会グループで実施していた東日本大震災を憶えて祈る礼拝を、東北教区で実施している毎月の記念礼拝と同時刻とし、「午後2時46分の黙想と祈り」として5月より以下のようにおささげすることと致しました。

- 日時 毎月11日午後2時30分より（曜日に関係なく実施します）
- 場所 聖アンデレ主教座聖堂
- 共催 聖アンデレ主教座聖堂と東京教区災害対応チーム

また、これまで各教会グループ持ち回りで、奇数月に実施していただいた礼拝につきましては、こちらからの呼びかけは終えることとなりますが、今後それぞれのグループのご事情にあわせて展開^(*)していただくように、お願いすることになっております。（日時、場所は[こちら](#)）

引き続き皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

お一人でも多くの方と共に祈る機会が与えられれば感謝です。

「忘れないでほしい」 「忘れない」

〔今回、東日本大震災を憶えての祈りを、私たちが続けていくことの意味について、東京教区主教、聖アンデレ主教座聖堂、災害対応チームで話しあいました。下記に概要をお伝えします。〕

これまで2011年3月以来、東京教区では東日本大震災を憶えて毎月礼拝を守ってきました。この礼拝は、東京教区の方々の主体的な思いによって定期的に捧げられてきた礼拝です。しかし、5年の歳月が流れ、日々の生活にあって、私たちは、あの時、自分が思ったこと・感じたことを忘れがちです。また、大きな自然災害が次々と起こり、新たな関心事が増しています。そうしたなかで、なぜ「東日本大震災」だけを祈り続けるのかということについて、もう一度確認しました。

その理由はふたつあります。ひとつは、私たちは、東北地方などの被災された方々との交わりを通して、「忘れないでほしい」という声を大切な声として聞き続けることを、東京教区における自分たちの宣教課題としてきており、これを継続すること。もうひとつは、この震災が自分たちの課題と密接な関係にあることを確認し続けることにあります。東日本大震災の出来事が、被災地の被害の甚大さもさることながら、自然災害にとどまらず、人災の側面が極めて高いこと、ことにこの東京の地に住む自分たちの生活や価値観が厳しく問われる出来事であったからです。自分たちの課題として、日本社会の矛盾や傲慢が露呈された東日本大震災を憶え続けることが、東京教区としての使命のひとつであろうと理解するに至りました。

そこで、改めて、東京教区としてこの東日本大震災を憶えて祈る礼拝を今後も守り続けていくことといたしました。そして、これからは東北教区と連帯する意味を込めて、東北教区主教座聖堂で守られている礼拝と同時刻に開催致します。また、自分たちの有り様を振り返る意味でも、毎年この礼拝をどのように継続していくのかを検討しながら歩いていくことといたしました。